

事業報告書 団体名: Kids Music Community

事業名	音楽の魔法コンサート(こども向けインクルーシブクラシックコンサート)
【当初計画の事業目的(取組課題)と実施効果】	
<p>【事業目的】</p> <ul style="list-style-type: none">・障がい児と健常児が共に参加し、各々が多様性を感じるにより、寛容な社会の実現を目指す。・こどもたち参加型のコンサート(体験コーナーの実施)により、様々な音楽的事象への関心を広げる。・こどもたちへのクラシック音楽(伝統芸術)の継承、普及。・障がいのあるこどもと親が、気軽に足を運ぶことができるコンサートを提供する。 <p>【事業計画】</p> <p>弦楽合奏、管楽器、歌、ピアノによるクラシックコンサート。 こどもたちがクラシック音楽を身近に感じられるような演出を心掛ける(クイズの挿入、体験コーナーの挿入、こどもたちの参加型プログラム、など)。</p> <p>実施時期 : 年に2回(8月16日と12月25日) 実施場所 : ミューザ川崎市民交流室(8月16日)、川崎市国際交流センター(12月25日) 対象者 : こどもと保護者 募集方法 : チラシ配布、HP掲載、地域広報誌への掲載 広く川崎市全域から募集する</p> <p>感染拡大防止対策: 来場者の手指消毒、来場者・出演者のマスク着用、会場の定期的な換気、来場者名簿の作成、ステージと客席の距離や座席間隔を空ける。</p> <p>【実施効果】</p> <ul style="list-style-type: none">・当コンサートは、こどもたちが音楽を通して多様性を感じ取ることができる貴重な場であり、気づきを行動に移すきっかけとなる。結果的に、寛容な社会の実現につながることを期待する。・こどもたちが、弦楽器の体験をし、管楽器の仕組みを知り、生演奏の迫力を身近に感じるなど、リアルな体験を重ねることにより、クラシック音楽への興味を広げることができる。・障がいのあるこどもたちが、コンサート中に動いても声を出しても良いため、自由に自己表現ができ、心理的に充足した時間を過ごすことができる。また、保護者にとっても、気兼ねせず音楽を楽しむことができる時間となる。・上記のようなインクルーシブな体験型のコンサートは、類を見ないと思われる。他にはない貴重な体験を、こども達に提供することができる。	

【実施結果】

・8月16日(火)14時開演(15時30分終演) ミューザ川崎市民交流室

主催側参加者:14名(内:演奏者9名) 来場者:80名程

チラシ枚数 1100枚

配布先:中原養護学校、高津養護学校、高津養護学校分教室、麻生養護学校、中央支援学校大戸分教室、中央支援学校稲田分教室、田島支援学校さくら分教室、田島支援学校桜校、川崎市総合教育センター、川崎市中央療育センター、川崎市南部地域センター、川崎市北部地域センター、川崎西部地域センター、ダンウェイジュニア GUIL、NPO ホットスペース、もえぎの丘、その他協力者各位

【プログラム】

音楽の魔法コンサート Vol.4 サマーミニコンサート

(演奏楽器:ヴァイオリン、ピアノ、チェロ、コントラバス、ピッコロ、フルート、篠笛、タンバリン、ピアノ、テノール)

第一部

- ・G.ビゼー「アルルの女よりファランドール」
- ・楽器体験コーナー(ヴァイオリン、ピアノ、チェロ、コントラバス)
- ・ステージ体験コーナー:フルートを間近で聴いてみよう!
G.ビゼー「アルルの女よりメヌエット」
- ・G.ビゼー「カルメンよりトレアドール」

第二部

- ・中田喜直「夏の思い出」
- ・A. ヴィヴァルディ「四季より冬」
- ・G.ホルスト「惑星より木星」
- ・W.A.モーツァルト「アイネクライネナハトムジークより第1楽章」
- ・みんなで歌おう!
唱歌「村祭り」(子どもたちはステージで、祭りのリズムを手拍子しながら歌う)
- ・「八木節」(子どもたちはエッグマラカスで参加)

♪演奏動画(20分程度に編集)

https://youtu.be/_PjSJZE8f7w

・12月25日(日)14時開演(15時30分終演) 川崎市国際交流センター

主催側参加者:17名(内:演奏者14名) 来場者 274名

チラシ枚数 1500枚

配布先:8月と同じ

新聞掲載:東京新聞、神奈川新聞、読売新聞

【プログラム】

音楽の魔法コンサート Vol.5 MagiChristmas☆

(演奏楽器:ヴァイオリン、ピアノ、チェロ、コントラバス、ピッコロ、フルート、クラリネット、ファゴット、チャイム、ハンドベル、ピアノ、テノール)

第一部:イタリアオペラの世界

- ・G.ヴェルディ オペラ「椿姫」より「乾杯の歌」
- ・G.プッチーニ オペラ「トスカ」より「星は光りぬ」
楽器の音色の聴き比べ(フルート、クラリネット、ファゴット):曲のストーリーに合った音色を出す楽器はどれかな?
- ・G.ロッシーニ オペラ「ウィリアム・テル」より「スイス軍の行進」
- ・楽器体験コーナー(ヴァイオリン、ピアノ、チェロ、コントラバス)
※フルート、ファゴット、クラリネットは楽器の性質上、近くで音を聴くのみ。

第二部：クリスマス

- ・ナポリ民謡「フニクリ・フニクラ」、童謡「おにのパンツ」（原曲はフニクリ・フニクラ）
- ・ステージ体験コーナー：演奏者の近くで聴いてみよう！
 - P.I.チャイコフスキー くるみ割り人形より「行進曲」
 - P.I.チャイコフスキー くるみ割り人形より「葦笛の踊り」
 - P.I.チャイコフスキー くるみ割り人形より「花のワルツ」
- ・赤鼻のトナカイ
- ・アメイジング・グレイス
- ・もろびとこぞりて（ハンドベルの演奏）
- ・ジングルベル（こどもたちはエッグマラカスと歌で参加）
- ☆ サンタからのプレゼント（イタリアのクリスマス伝統菓子「パネトーネ」をこどもたちに配る）

♪演奏動画(20分程度に編集)

<https://youtu.be/JyJ25WtYe9w>

【実際の効果と課題】

・多様性の実現

障がいのあるこどもの来場数が3割ほどあったと思われる。

それぞれのこどもたちが楽しんでいる様子が見受けられた。

このコンサートの場が多様性を体現しており、こどもたちが音楽を通して様々な気づきを得られたと感じる。

【アンケートより】

「車椅子の子供を連れてきました。私自身、音楽が大好きですがコロナ禍でコンサートの数を控えていたので、本当に数年ぶりの生の音楽に触れて、涙が出ました。」

（療育センターに通っているこどもより）「ハッピーな気持ちになりました。これからも続けてほしいです。」

・クラシック音楽への興味・関心を引き出す

楽器体験コーナー、ステージ体験コーナーにより、実際に楽器を演奏し、間近で演奏者の息づかいや楽器の振動を感じていただくことができた。

楽器体験コーナーにおいては、車椅子のこどもたちに対して、演奏者がこどもの傍まで行き、体験の補助をした。

手を動かすことのできないこどもに対しては、演奏中の楽器に手を触れて振動を感じてもらうなどの工夫を試みた。

演奏者が使用している楽器の「年齢クイズ」では会場が盛り上がり、より一層楽器への興味を引き出すことができた。

【アンケートより】

「いろいろな楽器に実際に触れることができたので、興味を持ったものをやらせてみたいです」

「ヴァイオリンがとても好きになりました！ありがとうございます！！」

「個人的にはこどもにフルートを習わせたいなあと思いました。私は日本の笛を吹いてみたいです。」

「音楽も素晴らしく、合奏団の方々もこどもに優しく、貴重な楽器に触れさせてくださり、ありがたかったです。とても良い経験をさせていただきました。」

「今回と同じように、次回も生のクラシック音楽を聞かせてください。ちょっとしたこども向けのコンサートはありますが、なかなかクラシック音楽を聴く機会がありません。」

・親子で気兼ねなく参加できるコンサートの実現

「コンサート中の出入りは自由、音楽に合わせて声を出しても踊っても良い」という旨を、開演時にアナウンスした。

その結果、親子で音楽に合わせて身体を揺らしたり、踊ったりしている様子が見受けられた。

最後の曲は会場のこどもたちにエッグマラカスを配り、音楽に合わせて自由に鳴らしてもらった。

【アンケートより】

「ディズニーランドに来ているような楽しい気持ちになりました。豊かな気持ちです。」

「マラカスもノリノリで楽しかったです。」

「出入り自由なのも良かったです。」

「親子で気軽に参加できるコンサートでうれしかったです。」

・「貴重な体験」の提供

アンケートのご意見に「貴重な体験だった」という声を多数いただいた。

また、継続を望んでくださる声を多くいただいた。

貴重な体験をこどもたち（親御さんたち）に提供することができたと確信している。

【アンケートより】

「実際に楽器に触れあう機会もあり、間近で音を聞く経験も得られ、貴重な時間となりました」

・今後の課題

今後の課題として、「来場者数の管理」「障がい児へのさらなる周知」が残った。

定員 100 名に対しての来場者数は、8 月のコンサートでは 80 名程度（目視）、12 月のコンサートでは 274 名（カウンター計測）だった（入場できずにお帰りになった方もいらしたため、300 名近くご来場いただけたこととなる）。

12 月においては、会場に余裕があったために急遽座席を増設して対応したが、体験コーナーで混雑が発生し、体験をできないこどもたちもいた。

次回以降は、全ての来場者に満足していただけるよう、また安全面でも主催者側の目が行き届くよう、事前予約制にすることも検討していきたい。

また、障がい児の来場者数を 5 割ほどに増やすことができるよう、更にコンサートの存在を周知していきたい。

養護学校、支援学校、療育センター、民間の放課後デイや福祉施設にもチラシを設置していただいているが、更に様々な場で日ごろから宣伝するよう努力をしたい。